

入賞作品紹介

⑭

私と新聞

福島市須田夕菜さん
福島市須田夕菜さん
金谷川小5年

私は最近、新聞を読むことがだんだん増えてきた。四年生までは読めない漢字があったりして、全然読まなかった。

私が新聞を読むようになったのは、本をたくさん読むようになったことも関係あると思う。私は五年生になってから、いろいろな本に興味をもつようになった。新聞も本も読んでいくと、

すいこまれるように頭の中に入れていく。新聞はいろいろな内容が書いてあるので、一つの記事を読み終わるごとに、次の記事も目に入る。そのため、いろいろな情報を得ることが出来る。得た情報は学校でも役に立つので、新聞を読むと良いことがたくさんある。

特に気になる記事は、やはり福島のことだ。有名なニュースはテレビでも見ることが出来るけど、新聞だから分かるニュースも少なくない。スポーツや農業など、たくさん記事を読んでいくと、福島のことをもっと知ることが出来るようになる気がして、うれしい。

新聞を読むと、長い文も読めるようになったと思う。そのため、教科書の物語や本もたくさん読むことが多くなったと感じる。

私が前まで新聞を全然読んでいなかったのは、必要ないと思っていたからかもしれない。だけど、読む力も上がり、何よりも、いろいろなことを知ることが出来る新聞ってすごいなあと思った。感

来ようようにしたい。

新聞と私

母 須田由美子さん

毎日隅々まで目を通すわけではないが、休刊日は少し物足りないと感じるほどに、新聞は身近にある。本を読むのが好きなので、活字に触れる機会も多いが、新聞を開く瞬間のワクワク感

は他にはない。例えようがない。そして、話題のニュースや興味を持った記事については誰かと共有したり伝えたりしたくなる。今までは職場で同僚と家で家族と話したりすることが多かったが、最

近は子供にこの記事が面白いよと教えたり、子供から新聞にこんなことが載っていたよと教えてもらったことが増えてきた。読む力がついてきたのだと思い、成長が嬉しい。

テレビやネットのように速報性はないかもしれないけれど、新聞には開くだけで社会や地域とのつながりを感じることが出来る良さがある。

震災の翌日も新聞は届いた。あの被害の中、私達は新聞からどれだけの安心をもらったことだろう。当時は情報を得たいと一生懸命紙面を追っていたことが思い出される。

スマホやパソコンであつという間に世界中の情報を手にすることが出来る現在でも、新聞を頼りにしている、必要としている人はまだまだ多い。改めて新聞と自分の関わりを思い返してみても、情報源であったり、コミュニケーションのツールであったり、時には物を包むためであったり、その時々で変化はあるが、私にとって欠かせない存在なのだと感じている。